

地域創造 NPO 頼れるふるさとネット通信

2011.5.15 №1

発行者 特定非営利活動法人「頼れるふるさとネット」
☎&Fax 0897-77-3072 (事務局・平山)
090-8247-5279 (携帯電話・平山)
0897-72-9188 (事務所/やよみ事)
〒794-2506 愛媛県越智郡上島町下弓削 515
メール k-jitikenkyuukai@amber.plala.or.jp

特定非営利活動法人（NPO）「頼れるふるさとネット」は平成23年4月26日、法人登記されました。このNPOは篤志家の寄付金と会員の会費を原資とし、法人の定款に定める次の様な活動をします。

[活動目的における基本的考え方]

(1) 地域住民自治の構築

地域の存続のため住民が互いに助け合い、地域は地域で守るという「住民自治」を構築することで地域の活性化と町づくりに貢献します。

(2) 多様な人、文化、活動を受け入れ育てつなげる地域づくり

ふるさとへ帰りたい、あるいは他の地域からの移住を希望する人を積極的に受け入れ定住することを推進、支援します。その為に「帰りたい」「住みたい」と切望してもらえるよう、従来にはない文化・価値なども積極的に受け入れ融合させること、また地域内での住民による様々な活動を支援することで、今までにない魅力の再発見に発展するような地域づくりを進めます。

(3) 地域資源の再発見と外部への発信

従来からの地域の歴史・文化をもう一度調査、編纂、保存、継承します。また埋もれてしまった資源を発掘し、従来からのものと共に生かして、地域内はもちろんのこと、観光資源に繋げることにより、外部へ向けて地域情報を発信し、地域の振興活性化等への活用を図ります。

こう書けば硬い言葉で抽象的です。また受け取る皆さん方にもそれぞれのイメージがあることでしょう。

萌える縁に
誘われて

とよき
安藤朋生 茨城県



GW前に何としても震災前の通常業務に戻す狙いで急ピッチに進められた工場再建は、それは毎日が忙しく、寝ても覚めても仕事の段取りで頭が一杯。めちゃくちゃ忙しいけど、何だか楽しいじゃないか!だけど今まで真面目にやってこなかったことが一気に吹き出す。神様もう二度とサボったり、くさつたりしませんから、どーか少しだけ力を貸して下さい...と、とにかく悔やまれてならぬ仕事ぶりなのである。それを

まあ微笑ましく今頃仕事に目覚めたか?と笑う課長もいたりし、天パリ具合も想像を超えると、そこはやはり笑いながらしばし待って話し出す課長もいて、心底とも有り難く感じた。

ダメでも何でも真面目に向き合うことが重要で、遠回りしたけどこの感覚に辿り付けて良かった。仕事への再建に取り組もうじゃないか私!と目の前の連休に涙で手を振ったのは、言うまでもないのだ。

毎日フル回転で仕事をこなした結果、3~5日の3日間の連休を頂くことが出来た。そうとなつたらいざ出陣である!



2011/05/01

NPO「頼れるふるさとネット」の登記完了を記念して「やよみ事」の前で撮影しました。理事 平山和昭、宮脇聰、古崎公一、村瀬忍、宮脇聰、濱田高嘉



学びとひらめきの井戸端会議

例えば(1)に関して私達は「やよみ事」という地域の人達の交流の場をつくりました。「学びとひらめき井戸端会議活動ひらめき隊」となづけ、語り合うことで地域の課題を見つけ、解決への糸口を探っていきます。ひとの動きは語り合う中で生まれてくると思うからです。

例えば(2)に関しては「おせっ会」というテーマで他者の支援を目的とします。

Iターン、Uターン、都会での居場所をうしなった人への、あるいは災害罹災者等への一時避難場所の提供、町内の方の一時仮住まいなどの目的でやよみ亭敷地内に一棟の住宅を用意しました。

たかが一棟。何が出来るというものでもないでしょうが、小さな取り組みからでも物事は広がってゆくと信じます。

あるいは買い物弱者、つまり日常の買い物が思うにまかせない人も地域にはおられるでしょう。「御用聞き隊」とか、交通弱者対策として「ついてく隊」、地域資源の再発見を試みる「めっけ隊」など表現の違いこそあれ取り組むべきテーマは沢山あります。それらの隊を、地域の皆さんのご協力を得て結成したいです。

新しくオープンした離島体験交流施設フェスパのお客様に向けた「地元の素人によるガイド隊」も面白そうです。大切なことは、私達が「して貰う」ことから入るので

はなく、まず地域の人々自身が、相談ぶつて、力を出しあって自分たちの必要とする仕組みを作る。それを私達も一緒になって取り組むことだと考えます。お節介をし、お節介を受け入れる・・・。

私達がいまより遙かに貧しく、不便であった時代、そういう事は誰に言われるでなく地域の中で実行されていました。そしてまさに現在、私達全てが頼り頼られる関係を取り戻すことできてしまっていると感じます。そこに住む人々すべてが知恵と力を供出する。それ無くて、この町が独立した町として存続することは難しい。そう思うのです。

若い人がこの町へ入って来なければ町に未来はありません。私達は「都会と田舎をつなぐ活動」で町の永続に寄与したいと願っています。若者の移住に取り組むにしても、皆さんのご参加とご協力が無ければ出来ません。

行政が第一優先で考えるべきことは住民のこと。住民が第一優先で考えるべきことも住民のこと。つまり、みんなこの一点で同じ目的なのではないでしょうか。

私達の活動に積極的に参加していただき力をお貸し下さるようお願い致します。

「頼れるふるさとネット」理事長 平山和昭

頼れるふるさとネット通信は随時掲載します。

焼き物のフェス、笠間の陶器市である。早朝6時半に出発し30分程で到着。この時間に来ると、ゆっくり気持ちのいい朝を満喫出来る。テント1つ1つに在の家主に代わ個性を感じ、不¹⁰って作品がエネルギーを放つ。

人のまばらなこの時間が大好き!そんな素敵なか間にフッと思い出してしま¹¹う原稿と編集長。こういう時、必ず伝わるのかタイミング良く連絡などあったりするから驚きである。というか謝ります!ごめんなさい(>人<)謝ってる間に目当てのテントへ辿り着く。

茨城県最大ではないだろうか、

香川県出身の海野弥生さん。彼女とは去年お知り合いになつたばかり。海野さんの作品は海がモチーフで、その彩色とデザインがとても彼女らしく一目惚れしたのだ。私は勝手に”海野ブルー”と呼んでいるけど、白の作品もあってこちらも個性的でありながら落ち着いた風合いが目を惹き1つ購入することに。

そういうえば海野さんが私のblogを見て連絡をくれた方がいたと言うから2人で盛り上がった。

帰りの運転は楽しかった。必ず島で計画したい気持ち沸き上がる。だからこの原稿は...打ち切られないように応援して下さい(TAT)ね。

島に
島に
住み
在い